

# 災害時における通行止め期間の短縮

別紙5

- 豪雨によるのり面崩壊等の災害時において、2車線区間では復旧工事の完了まで車線の確保が困難なことから、通行止め等が長期間必要となる。
- 4車線化により、災害時に片側2車線を対面通行で交通を確保することにより、通行止め期間の短縮が可能となり、道路機能の強化に繋がる。

## 《暫定2車線区間の災害事例》

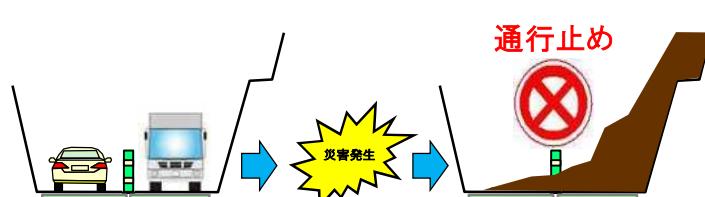
区間: 東九州自動車道  
椎田南IC～豊前IC  
概要: 平成30年7月九州豪雨



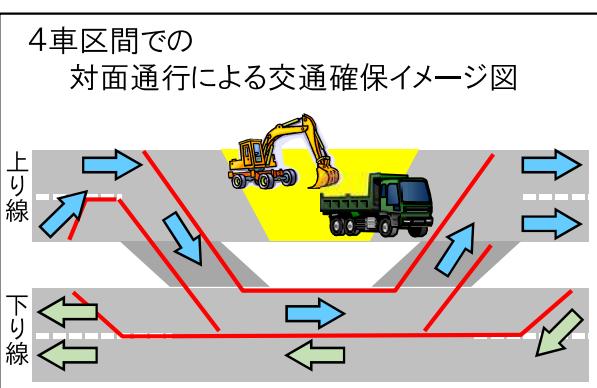
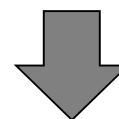
## 《4車線区間の災害による暫定運用例》

区間: 九州自動車道  
溝辺鹿児島空港IC～加治木JCT  
概要: 令和元年7月九州豪雨

九州道では上り線が被災したが、4車線であったため  
下り線を活用して早期に交通機能を確保

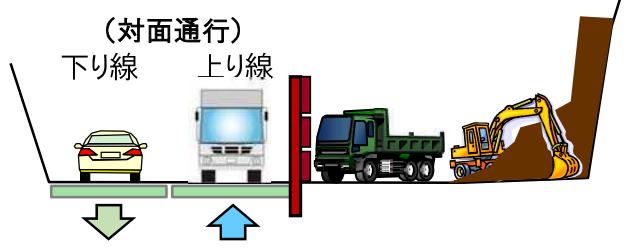


暫定2車線の場合



復旧作業の間、対面通行  
により通行帯を確保

復旧作業の施工  
ヤードとして利用



4車線道路の場合